

利尻島におけるオガワコマドリの観察記録

大館和広

〒094-0015 紋別市花園町 3-2-4

An Observational Record of Bluethroat, *Luscinia svecica* (Palleas, 1776), from Rishiri Island

Kazuhiro OHDATE

3-2-4 Hanazono, Monbetsu, Hokkaido, 094-0015 Japan

Abstract. One male of Bluethroat, *Luscinia svecica*, was observed at rocky shore of Kutsugata, west area of Rishiri Island, from 11th to 12th May 2008. This is sixth record of this species and also the first observation in natural condition from Hokkaido, because all of past five records were based on captured bluethroats in researches and dead one found in a building (Higuchi & Hirokawa, 2005). Observational season at this record suggests that bluethroats used the coast of the Japan sea at west Hokkaido as a migratory route in spring.

オガワコマドリ *Luscinia svecica* は体長 15cm ほどのツグミ科の鳥で、ユーラシア大陸中北部で繁殖し、日本には少ない冬鳥として渡来する（五百沢ほか、2000）。北海道での記録はこれまでに、釧路市 1 例、羽幌町 1 例、石狩市 2 例、福島町 1 例の合計 5 例で、いずれも秋の記録であり、釧路市以外は標識調査での捕獲記録である（樋口・広川、2005）。

筆者は 2008 年 5 月 11 日早朝に利尻町杵形でオガワコマドリ♂ 1 羽を観察したので報告する。当日観察に使用した機材は 8 倍双眼鏡、デジタルカメラ、時計などである。

同日午前 5 時 13 分頃、利尻町杵形杵形岬公園の海岸から 100 m ほどの岩場（北緯 45 度 11 分 11 秒、東経 141 度 07 分 42 秒、標高約 6 m）で♂ 1 羽（成幼不明）を発見した。当初は近くでさえずるノゴマ♂ 1 羽を観察していたのでノゴマ♀かと思えたが、双眼鏡で確認すると、喉の青色と赤褐色が目立ち直ぐにオガワコマドリだと識別できた。その後、岩場

の隙間にもぐりこんだようで見られなくなった。岩場にはところどころ、ツタウルシ、トガスグリ、ハマナス等が生えていた。

午前 7 時 30 分頃から約 10 分間、日本野鳥の会道北支部会員 10 数名とともに同所で先程と同じ個体と思われるオガワコマドリを発見し観察することが出来た（Fig. 1）。この時、飛び立った時に尾羽の両側の赤褐色の部分が目立って見えた。

午前 8 時 55 分頃から約 30 分間、再び会員と共に同所で同じ個体と思われるオガワコマドリを発見し観察した。オガワコマドリは岩上を両足をそろえたホッピングで移動していた。筆者らが動くとき警戒するように岩の隙間に潜り込み、暫くするとまた付近の岩上に出る行動が観察された。この時、さえずりと思われる声（俗に言われるぐぜり）を複数回聞いた。声は岩の頂点付近に止まった時に聞かれ、上手く言葉では表現できないが、ノゴマのような力強さはなく軟らかな声であり、最後のほうで「チリリン、チリリン」というような鈴の音のような声を聞



Figure 1. One male of bluethroat observed at Rishiri Island on 11th May 2008.

いた。

筆者はこの後離島したので後日の観察はないが、利尻町在住の佐藤雅彦氏の私信によるとオガワコマドリは12日も同所で観察出来たという。その間さえずりらしい声も聞いているという。

5月11日の利尻町杓形の天気は曇で気温風向風速は、午前5時2.8度北東2m, 同7時5.9度西1m, 同9時6.8度西北西3m(アメダス値)であった。前日は特に荒天ではなかった。

今記録は利尻島での初記録であり(小杉, 2008), 北海道における春期の初記録でもあると思われる。更に自然条件下での初めての観察記録だと思われる。この鳥の繁殖地からの移動のルートを考えて、北海道では秋と春には主に日本海側を定期的に利用している可能性もある。今後各地の精度と密度の高い観察によって明らかにされることを望みたい。

本報告をまとめる機会を与えてくれた利尻町博物館の佐藤雅彦氏に感謝するとともに写真も借用させて頂き、改めてお礼を申し上げたい。

参考文献

- 五百沢日丸・山形訓男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550. 山野の鳥. 文一総合出版. 359 pp.
- 樋口孝城・広川淳子, 2005. 北海道におけるオガワコマドリの記録. 山階鳥学誌, (37): 69-71.
- 小杉和樹, 2008. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- 高野伸二, 1984. 野鳥識別ハンドブック. 日本野鳥の会. 334 pp.
- 高野伸二, 2007. フィールドガイド日本の野鳥. 増補改訂版. 日本野鳥の会. 374 pp.